

体育科学学習指導案

日 時：平成23年2月28日（月）
 対 象：第 5 学 年 ○ 組
 授業者：大田区立〇〇小学校 〇〇 〇〇

1 単元名 表現運動

「表現 ～みんなで『SOUZOU（想像・創造）』！～」

2 単元の指導目標

技能：表したい感じを強調するように動きに変化と起伏を付けたり、簡単な群（集団）の動きを工夫して踊ることができるようにする。

態度：運動に進んで取り組み、気持ちを合わせて楽しく踊ったり、友達の動きや活動のよいところを見付けたりして認め合うことができるようにする。

思考・判断：課題解決のために、運動の仕方を工夫できるようにする。

3 単元の評価規準

観点	ア 運動や健康・安全への関心・意欲・態度	イ 運動や健康・安全についての思考・判断	ウ 運動の技能
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 運動に進んで取り組み、互いのよさを認め合い助け合っって練習や発表をしたり、場の安全に気を配ったりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 動き、リズム、かかわり、空間の4つの工夫の仕方を理解して題材のイメージに合う動きを考えている。 課題解決のための活動の場を決めたり、動きを教え合ったりして練習や発表の仕方を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 表したい感じを強調するように動きに変化や起伏をつけて表現している。 簡単な群の動きを工夫して踊ることができる。
学習活動に即した具体的な評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ①友達と関わり合ったり、動きを工夫したりして体で表現する楽しさを味わっている。 ②友達のよさを見付け、互いのよさを認め合おうとする。 ③互いに協力して練習したり、交流や発表をしたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①4つの工夫を意識してイメージに合う動きを考えている。 ②見合うポイントを意識して動きを教え合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①4つの工夫を意識して、膝や肩、全身を使い、踊っている。 ②グループ作品として隊形、方向などまとまりをもって表現している。

4 運動の特性

(1) 効果的特性（運動の身体的発達に対する効果に注目）

- ・体全体を使って踊り、心を解き放す経験を通して、イメージしたことを表現できる豊かな表現力を身に付けることができる運動である。
- ・素早い動きやゆったりとした動きなどを組み合わせることで体の調整力を高めることができる運動である。

(2) 構造的特性 (運動の技術的な仕組みに注目)

- ・自分以外のものになりきって踊ったり、心にある思いや考えを体全体で表現できたりする運動である。
- ・体全体を自由に動かして、動きをつくり出すことができる運動である。
- ・友達と自由に関わり合い、感じ取って踊ることができる運動である。

(3) 機能的特性 (運動の欲求や必要を充足する機能に注目)

- ・自分以外のものになりきることが楽しい運動である。
- ・様々なアイデアや工夫を凝らして動きをつくるのが楽しい運動である。
- ・友達の表現を見て共感したり、感動したりすることができる運動である。

5 児童の実態

<省略>

6 教師の願いと身に付けさせたい資質・能力(班テーマとの関連)

(1) 単元について

本単元は、学習指導要領「F 表現運動」に属する。

第5・6学年の表現運動の内容は、イメージを大切にしたりリズムカルな動きで自己を表す「ア 表現」と、踊り方が定められている「イ フォークダンス」から構成されており、「リズムダンス」を加えて指導することができる。「ア 表現」は表したい感じを体の動きによって表現することを楽しむ運動であり、「イ フォークダンス」は曲目に合わせてみんなで踊ることを楽しむ運動である。児童の実態として今まで「ア 表現」の経験が少ないことから、本単元では「ア 表現」を中心に指導することにした。

表現運動の楽しさは、その特性から「自分以外のものになりきる楽しさ」「自分で考えて運動を工夫する楽しさ」「友達の表現を見て共感したり感動したりする楽しさ」であると考えられる。しかし、表現運動では踊ること、身体表現することに対して抵抗を感じている児童が多い。

そこで、表現運動の特性を十分に生かし、楽しさを味わわせるためには、まず児童がもっているマイナスイメージや抵抗感を取り除くことが重要であると考えた。心を解放するための手だて、踊る楽しさ、表現することの楽しさや、体を動かす心地よさを感じるための具体的な手だてを考えて取り組ませることで、児童は表現運動の楽しさを感じることができる。

また、実態調査で「体育が嫌い」と回答した児童が〇名いたこと、友達との関わりや自分たちで工夫することに対する意識が低いということがあり、表現運動の特性を生かし、これらの課題を改善していきたいと考える。

(2) 表現運動の楽しさを味わわせるための手だて

児童の実態と、本単元で味わわせたい表現運動の楽しさから、目指す児童像を次のようにした。

- 互いの動きのよさを認め合ったり、アドバイスをし合ったりして動きを高め合っている。
- グループで協力しながら、表したい題材になりきって体や空間を思い切り使って表現したり、特徴や感じを捉え、急激な変化をつけたり強調したりして表現している。

めざす児童像に迫るための手だてとして次のことを考えた。

①心を解放し、表現運動への抵抗感を少なくする工夫

ア 心と体をほぐす運動による導入の工夫

毎時間の最初に心と体をほぐす運動やリズムダンスを行うようにした。体ほぐしの運動では、ゲーム性があり、分かりやすく体を動かせる内容を取り上げ、児童の抵抗感を少なくするようにした。また、リズムダンスでは、友達と関わりながら楽しい雰囲気の中で取り組むことで表現運動の楽しさや心地よさを味わえるようにした。

(取り組んだ運動の主な例)

なりきり〇〇	教師が新聞紙やボールを操り、それと同じ動きをする。強弱、動かす方向、スピードなどに変化をつける。
ミラーダンス	二人組になって手をつないで友達のリズムを感じ取ったり、友達の動きに合わせて、自分の体を動かしたりする。曲に合わせて走りながら行ったり、途中で曲を止めて2人でポーズを取ったりするなどの工夫をした。
だるまさんが 転んだ	教師が鬼となり、太鼓のリズムに合わせて教師が児童を追いかける。太鼓の合図で静止し、いろいろなポーズを取る。リズムを変えたり、ポーズに条件を付けた。

イ 「見せること」「見られること」の抵抗感を和らげる工夫

表現運動の楽しさの1つに、「友達の表現を見る」楽しさがあるが、「見せること」「見られること」に対して抵抗感をもつ児童がいる。その抵抗感を和らげるために、クイズ形式で発表し合う場面を設けた。ゲーム性が強く、楽しめる活動であるので、児童の抵抗感が和らぐのではないかと考えた。

ウ 心を解き放し、表現をしやすくする BGM の工夫

児童が表現をしやすいうように、テーマにあった音楽を BGM として活用することにした。「はじめ」は静かな曲、「なか」は激しい曲、「おわり」は静かな曲と3曲構成にし、それぞれの曲調に合わせて動きを工夫できるようにした。また、リズムダンスでは児童の人気が高いリズムカルな曲に乗りながら、簡単な動きで踊れるようにした。

②表現の動きを豊かに広げるための工夫

ア 言葉から動きのイメージを広げる活動

第1時・第2時に、教師の言葉からイメージしたことを動きにする活動を取り入れた。しかし、初めから教師の言葉だけを頼りにイメージを広げて動くことは、表現運動の経験が少ない児童にとっては難しいと考える。そのため第1時では、新聞紙を使って様々な動きを経験し、動き方が分かることでイメージを広げて動くことができると考えた。

イ イメージ表現かるたの活用

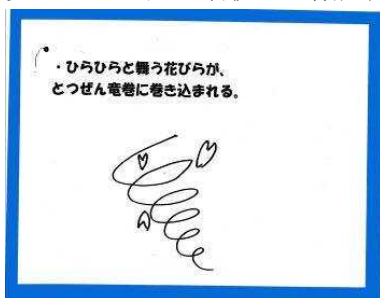
即興表現が楽しく意欲的にできるように、イメージ表現かるたを活用した。かるたの内容は、児童が読んでイメージできるように具体的で擬音などで表現できるもの、また動きを広げるために「伸びるもの」「跳ねるもの」「縮むもの」「舞うもの」など、いろいろな動きを用意した。また、最初の段階では例にあるように、「はじめ」と「おわり」の簡単なストーリーが作れるもの、ある程度慣れてきた段階では、その前後のストーリーを自分たちで考えられるものも用意した。

遊びのような感覚でいろいろなものになりきって動けるといふことと、全員一斉に動くため、人に見られているという恥ずかしさを感じることがないよさがあるので、児童が伸び伸びと様々な動きを表現できるようになるだろうと考えた。

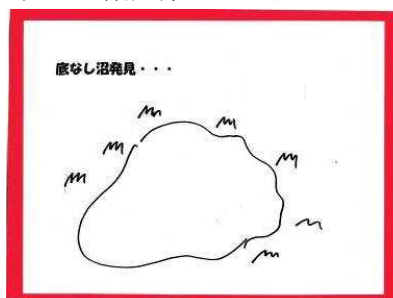
【方法】

- ①体育館の床にかかるたを並べ、児童は2人組になり、合図が出たら走って（スキップや動物歩きなども入れて）好きなかるたの所へ移動する。
- ②取ったかるたを大声で読み上げた2人でかるたが示したものを表現する。
- ③「終わり」の合図でかるたを伏せ、次の開始の合図を待つ。
※2人だけでなく、4・5人のグループで行うこともある。

(イメージ表現かるたの例：最初の段階／第3時に使用)



(次の段階／第4時に使用)



ウ 動きを工夫する4つの観点の提示

表現運動の経験が少ない児童にとっては、工夫と言われても、何をどのように工夫すればよいかは分からない。どう動いたらいいのかわからない児童に対する手だてとして、「動きの工夫」、「リズムの工夫」、「関わり方の工夫」、「空間の工夫」の4つの観点を教師が提示した。そして、第1時・第2時で実際にその動きを児童に経験させた。

即興的な動きをする上で、児童の中には既に4つの工夫のうち、いくつかは無意識に取り入れている場合がある。それらを教師が見付けて意図的に取り上げ褒めていくことが、児童が4つの工夫を意識して動くことへつながっていくと考える。4つの工夫の具体的な観点は次の通りである。

《動きの工夫》	《リズムの工夫》	《関わり方の工夫》	《空間の工夫》
<p>○体の軸を変化させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姿勢や体の向きを多様に变化させる。 ・ねじる、転がる、逆さになるなど、工夫した動きを加える。 	<p>○動きのリズムを変化させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムの速さを变化させる。 ・強弱や緩急をつけたり、急に止まったりしてリズムを変化させる。 	<p>○人との関わり方を变化させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人数を増やす。 ・反対側に回る。 ・相手と同じように動く。 ・バラバラに動く。 	<p>○動いている空間を変化させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広がる。 ・集まる。 ・方向を変える。 ・定位置をつくらず、常に移動する。

③児童同士がよさを認め合い、高め合うための教師の働きかけの工夫

ア 見合いの視点の提示と、よさの共有化

グループをつくり、互いに見合う場面を設定した。その際に、見合う視点を提示することによって、アドバイスをする際の視点や表現するときに意識することも分かるようになると思った。また、視点については複雑にならないようにした。そして振り返りの時間に、見合いの中で出たアドバイスや、相手グループのよさを全体で共有できるようにした。また、グループで見合いの視点を分担してアドバイスするようにした。

<p>見合いの視点</p> <p>○「はじめ—なか—おわり」があったか。 ○「4つの工夫」を意識した動きがあったか。</p>
--

イ SOSフラッグの活用

作品作りをするときにグループの仲間とどんどん進めていけるグループもあれば、教師の助けを必要とするグループもあると考えられる。そのためSOSフラッグを用意し、助けが必要なときはSOSを表示し、すぐにグループへの指導ができるようにした。

ウ 教師による具体的な言葉掛けと、具体的な動きの提示

よい動きをしている児童がいた時には他の児童にも動きを紹介し、「何がよい動きなのか」を分かるようにし、全体に広げるようにした。また、様々な活動の中で児童はどのように動いたらよいか分からないと不安を感じてしまうと考え、教師が動き方の見本を示して視覚的に指導をするようにした。

速くなったり、ゆっくりになったりスピードに変化があっているね。

手だけではなく、腕をもっと大きく振って、体全体で表現しよう。

「なか」を強調するために、その動きを3回繰り返してみよう。



体がねじれていいね。

3つのパターンの〇〇を考えてみよう。

みんな違う方向に動いているのがいいね。

7 単元全体の指導と評価の計画（全7時間）

段階	友達と一緒に、イメージを膨らませて楽しく踊ろう！！		かるたをめくって、思いのままに体で表現しよう。		みんなで SOUZOU！「踊る大作品展！」		
時数	1	2	3・4		5	6（本時）	7
学習内容	準備運動・体ほぐしの運動（スキップハイタッチ、〇〇になりきって、ミラーダンス等）・リズムダンス						
	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の進め方を知る。 ○新聞紙になりきる。 う。（動きのくずし） 一人→2人組→グループ ○イメージを膨らませて新聞紙になりきって動いてみよう。 ○整理運動をする。 ○学習の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の進め方を知る。 ○太鼓 DE ポーズ（関わりのくずし） ○だるまさんがころんだ（リズムのくずし） ○イメージを膨らませて洗濯物になりきって動いてみよう（空間のくずし） ○整理運動をする。 ○学習の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の進め方を知る。 ○教師が作成したイメージ表現かるたを基に、即興表現をする。 ○ペア同士で、即興表現クイズをし、お互いによかったことについて話し合う。 ○整理運動をする。 ○学習の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の進め方を知る。 ○どのグループも教師が提示するテーマで「はじめなかーおわり」の動きをつくる。 ○グループ同士で見合い、よかった動きについて話し合う。 ○グループごとに次時に表したいテーマを選び、「はじめ」と「おわり」の流れを考える。 ○学習の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の進め方を知る。 ○グループで興味・関心をもった題材について「はじめなかーおわり」の動きをつくる。 ○グループ同士で見合い、よかった動きについて話し合う。 ○グループごとに発表し、感想を交流する。 ○アドバイスを基に、グループでもう一度表現をする。 ○学習の振り返りをする。 	○グループごとに発表し、感想を交流する。	○単元全体の振り返りをする。
指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・心と体をほぐす運動を多く取り入れるようにする。 ・児童のよい動きを取り上げて、共有できるようにする。 ・教師が見本を見せる。 ・それぞれのくずしを強調して、言葉掛けをする。 ・一人→2人組→グループと徐々に人数を増やしていくようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・イメージ表現かるたを用意する。 ・最初は新聞紙や洗濯物に関するかるたを教師が選び、全員同じテーマで、一人で即興表現させる。 ・動き、かかわり、リズム、空間のくずしを意識させて取り組ませる。 ・児童のよい動きを取り上げて、共有できるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・まず「なか」の動きを考えさせ、次に、「なか」を強調するために、「はじめ」と「おわり」を工夫するように伝える。 ・表したい感じに急激な変化を加えたり、強調したりして表現することを伝える。 ・SOSフラッグを活用させる。 ・見合いの視点を示し、それに則してアドバイスできるようにする。 		
【評価方法】	<ul style="list-style-type: none"> ☆アー①【観察・カード】 ☆ウー①【観察】 		<ul style="list-style-type: none"> ☆アー①【観察・カード】 ☆アー②【カード】 ☆イー①【観察・カード】 ☆ウー①【観察】 		<ul style="list-style-type: none"> ☆アー②【観察・カード】 ☆アー③【カード】 ☆イー①【観察・カード】 ☆イー②【観察・カード】 ☆ウー②【観察】 		

8 本時（全7時間中の第6時間目）

（1）本時のねらい

（技 能）簡単な群の動きを表現することができる。

（態 度）互いに協力して練習したり、交流や発表をしたりすることができる。

（思考・判断）4つの工夫を見合うポイントを意識して教え合うことができるようにする。

（2）本時の展開（全7時間中 第6時間目）

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準【方法】											
0	○ 整列し、挨拶する。 1. 準備運動・体ほぐしの運動をする。													
8	2. 学習の進め方を知る。	○グループで興味・関心をもった題材について「はじめ—なか—おわり」が見ている人に分かる作品をつくることを伝える。												
	4つの工夫を意識して、「はじめ—なか—おわり」が分かるように表現しよう。													
10	3. グループに分かれて、「はじめ—なか—おわり」を意識して動きをつくる。 相談タイム その1 ・どのように表現するかをグループで相談する。 SOUZOUタイム その1 ・考えた表現運動に取り組む。 相談タイム その2 ・動きを振り返り、工夫を考える。 SOUZOUタイム その2 ・さらに工夫をしてもう一度表現する。	○4つの工夫（動き、かかわり、リズム、空間）を意識してつくるよう言葉掛けをする。 ○「なか」の激しい感を強調するために「はじめ」と「おわり」の動きを工夫するように伝える。 ○SOSフラッグを活用させ、支援を必要としているグループを中心に工夫の仕方等の支援をしていく。 ○相談タイムは90秒と決めておく。	☆ア—③ 【観察】											
20	4. グループ同士で見合い、見合いの視点にそって話し合う。 発表タイム <table border="1" style="margin: 10px auto; width: 200px; height: 100px;"> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">C</td> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">舞 台</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"> </td> <td style="text-align: center;"> </td> <td style="text-align: center;"> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">D</td> <td style="text-align: center;">E</td> <td style="text-align: center;">F</td> <td></td> </tr> </table>	A	B	C	舞 台				D	E	F		○発表するグループは自分たちが工夫したポイントを伝える。 ○見合う視点を提示し、それにそってアドバイスすること、グループの中で視点を分担することを伝える。 ○発表の始めと終わりには拍手をするよう言葉掛けをして、発表の雰囲気づくりをする。 《見合いの視点》 ・「はじめ—なか—おわり」があったか。 ・4つの工夫を意識していた動きがあったか。	☆イ—② 【観察・カード】
A	B	C	舞 台											
D	E	F												
30	5. アドバイスを基に、グループでもう一度動いてみる。 SOUZOUタイム その3	○見合いで出た意見を意識しているグループを賞賛する。 ○SOSフラッグを活用させ、支援を必要としているグループを中心に支援をしていく。	☆ウ—② 【観察】											
35	6. 整理運動をする。													
38	7. 学習の振り返りをする。	○本時で気付いた友達のよさや、自分たちの工夫を発表させる。												
45	8. 後片付けをする。 ○ 整列し、挨拶する。													

8・授業観察の視点

- ・児童は4つの工夫を意識して運動していたか。
- ・見合いの視点は適切であったか。また、視点を基にアドバイスし合っていたか。
- ・導入の体ほぐしの運動は、児童の心と体を解き放す内容であったか。

※参考文献・参考資料

- ・「最新 楽しい表現運動・ダンス」 小学館
- ・「表現運動のすべて」 明治図書
- ・「学校体育授業事典」 大修館書店
- ・東京都小学校体育研究会 表現領域部会 学習資料